

高橋 猩紅熱、アングナ、及び溶連菌精製毒素接種例に於ける血液像の關係に就て

三九二

猩紅熱、溶血性連鎖狀球菌性アングナ及び溶血性連鎖狀球菌精製毒素接種例に於ける血液像の關係に就て

第一編 定型的猩紅熱患者の血液像

慶應義塾大學醫學部內科教室(主任 西野教授)
東京市立豊島病院(院長 内田博士)

醫學士 高

橋

昇

(本論文の要旨は昭和拾四年第一三回日本傳染病學會演說會に於て述べた)

目次

第一章 緒言	第五項 鹽基性嗜好細胞
第二章 實驗材料及び方法	第六項 淋巴球
第三章 實驗成績	第七項 大單核細胞及び移行型
第一項 白血球數	第八項 プラズマ細胞及びチヌルク氏刺戟型
第二項 中性嗜好細胞	第九項 赤血球及び血色素量
第三項 テーレ氏封入小體	第四章 總括
第四項 エオジン嗜好細胞	第五章 結論

第一章 緒言

輓近猩紅熱に關する研究は其の病原體の追究と共に内外に甚だ多く、殊に其の血液像に關する報告は外國に於ては Mohr²⁾, Pfandler³⁾, Naegeli⁴⁾, Kotschekoff⁵⁾, Rgth⁶⁾, Grawitz⁷⁾, Schirlitz⁸⁾, Osler⁹⁾, Friedemann¹⁰⁾, Schilling¹¹⁾, Sahlg¹²⁾, Kretschmer¹³⁾, Schwenke¹⁴⁾, Pappenheim¹⁵⁾, Rolly¹⁶⁾ 等、本邦に於ては小宮¹⁷⁾、華岡¹⁸⁾、横森¹⁹⁾、小島²⁰⁾、佐々木²¹⁾、須磨²²⁾、佐藤・福士²³⁾、三上²⁴⁾、吉田²⁵⁾、岩波²⁶⁾、北島²⁷⁾、木村²⁸⁾ 等の發表がある。

上記の文獻に徴するに、白血球の消長就中白血球數、中性嗜好細胞の初期増加、淋巴球の急激な初期減少、エオジン嗜好細胞の増加及びテーレ氏封入小體の出現と發疹竝に落屑との關係等は本疾患と諸疾患との鑑別診斷上竝に豫

後判定上、重要な意義があることされる。

余は昭和十一年七月以降同十三年四月迄、東京市立豊島病院に入院した猩紅熱患者中、腎炎、中耳炎、關節炎、化膿性淋巴腺炎等の合併症を認めぬ比較的輕症な一九例を選び、本症の経過と共に各例恢復期迄に數回宛耳朶より採血し、赤血球及び白血球の消長を檢査し、是を先人の成績と比較すると同時に溶連菌性アンギナ及び溶連菌毒素接種例との比較を試みたのでその結果を茲に報告しようと思ふ。

第二章 實驗材料及び方法

材料は昭和十一年七月より同十三年四月迄東京市立豊島病院に入院した定型的猩紅熱患者の中、比較的輕症で腎炎、中耳炎、關節炎、化膿性淋巴腺炎等の合併症を認めぬ一九例(男九例、女一〇例)を選んだ。患者の年齢は三歳の三例を除き、他は五歳乃至十三歳の猩紅熱年齢に屬する。

採血は早朝空腹時耳朶より法の如く採血し、*Naga* 製ビュルケル、チュルク氏血球算定器を使用し、赤血球及び白血球数を數回算定して其の平均値をとり、血色素量はザリー氏血色素計を用ひて測定した。血液塗抹標本は載物硝子塗抹標本を作つて乾燥固定し、マイ・グリュンツルド及びギムザ染色液を用ひてマイ・ギムザ二重染色法を行ひ、標本中の白血球五〇〇を算して血液各細胞の百分率を定め、各細胞の絶對値を計算した。

デーレ氏封入小體の染色は血液載物硝子塗抹標本をメチールアルコールに固定した後マンソン氏ボーラックス、メチレンブラウ染色液を用ひて染色し、中性嗜好細胞二〇〇個中に認められる本小體含有中性嗜好細胞数を算定し、其の百分率を算出した。猶本實驗に選んだ患者糞便中の寄生蟲卵は檢査の結果何れも陰性である。

第三章 實驗成績

第一項 白血球總數

猩紅熱罹患に際しては造血器竝に血液像に變化を來たし殊に白血球增多症を來たすことは從來一般に認められたところであり、*O. Naegeli*、*Kotschhoff*、*Roth*、*Grawitz* 等は本症の第一病日より白血球增多症を見ること云つて居る。*Schultz* は成人二六人の患者中三分の二に一萬以下の白血球增多症を認め、*Oster* は三五例の猩紅熱患者に於て一萬八千乃至四萬の白血球增多症を認めた。*Friedemann u. Elkeles* は重症の場合白血球は三乃至四萬に達する事を記載して居る。

又 *Kotschhoff* は第二乃至第三病日即ち發疹の初期に中等度の白血球增多症を見、*Reckzeh*⁽²⁸⁾ は發疹消褪の初期最も増加し、落屑の末期に至つて正常に復すと云つて居る。本邦に於ても小宮、華岡、横森、小島、佐々木、須磨、佐藤及福士、三上等は其の経過中初期より増加して最高に達し、落屑と高橋¹¹ 猩紅熱、アンギナ、及び溶連菌精製毒素接種例に於ける血液像の關係に就て

高橋 II 猩紅熱、アンギナ、及び溶連菌精製毒素接種例に於ける血液像の關係に就て
 共に正常に復すと云ひ、吉田、岩波、寺門、木村等は發病第一日より中等度以上の白血球增多症を認め、第三乃至第五病日最高に達し、第一病週の終りに正常にかへると。

第1表 猩紅熱患者 19 例の病日と白血球數増減との關係
 但し數字は例數を示す

病日	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	14	21	31
白血球數													
4000—6000					2								
6000—8000			2	2	1	1	3	1	1	1	8	3	1
8000—10000			2	2	1	3	1	3	7	1	3	6	1
10000—12000		3	3	3	5	3	3	1	1	2	3	2	2
12000—14000		1	1	1	3	2		2		1	3	3	1
14000—16000	2	1		5	1	1	2					1	
16000—18000			1	1									
18000—20000		2		1									
20000以上	1	3	5										

余の實驗に於ても、白血球數二萬以上のもの八例、一乃至二萬のもの二例で第二病日より著明に増加し、高熱、發疹高潮の第三―第五病日最多數に達する者が多い。最も著明な一例は第四病日二三・六〇〇に達した。之等の中一二例(六三・二%)は發疹消褪した第一病週の終りに、殊にその中の九例(四七・四%)は第五病日以内に正常に復した。又白血球增多症が第二病週の初期に亘つたもの七例を數へた。
 以上一九例を病日別に見ると第二病日平均一四・五〇〇に増加し、第三病日は一六・四〇〇に達して最高値を示し、第四病日は一四・六〇〇、第五病日以後は殆ど一萬前後に止つて余り動搖を見ない(第六表第一圖)。更に病日別に白血球數増加の分布を観察するに、第一表に示す如く第二病日より第五病日に亘つて何れも増加し、特に第三乃至第四病日は白血球數の著明の増加を認むるものが多い。第六病日以後第八病日迄は本細胞の軽度の増加を呈するものを見るも、第九病日以後は正常値の範圍に止るものが多い。

第二項 中性嗜好細胞

中性嗜好細胞は猩紅熱初期白血球數の増加に伴つて絶對的にも相對的にも著明に増加し、核の左方移動を示す。Naegeli, Ostler, 三好(29)、須磨、吉田、木村等の報告も初期より本細胞の増加を來たし、高熱發疹期の極期に最も著明に増加し、以後落層に至る迄次第に減少して第二乃至第三病週の終りに正常に復すと云ふ。

尙小島によれば本細胞は年少者よりも年長者に高率に出現し、第三病日に最高となり、第七病日以後漸次恢復すると。小宮、佐藤、横森等の報告も以上と殆ど大同小異である。

余の實驗に於ても九〇%以上の者二例、八〇―八九%の者八例、七〇―七九%の者五例、六〇―六九%の者四例で六〇%以下の者は一例も見す。
 本細胞は第二病日より増加し、第二乃至第五病日の高熱發疹期に最高値に達した者一七例(八九・四%)を占めたが、就中四例は第三病日に、七例は第四病日に最高率を示してゐる。

第2表 猩紅熱患者 19 例の病日と中性嗜好細胞の増減との關係
但し數字は例數

病日	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	14	21	31
中性嗜好細胞(%)													
0—10													
10—20													
20—30												2	1
30—40				1	1	1	1		2		1	3	1
40—50			1	1	3	3	1		2	1	7	4	2
50—60		1	1	2	4	4	4	3	1	3	6	4	1
60—70		3	7	4	4	1	2	3	2	1	3	3	
70—80		3	1	4	1	1		1	2				
80—90	3	2	2	3			1						
90—100	1	1	2										

第3表 19 例の Döhle 氏封入小體出現率
(中性嗜好細胞に對する%)

病日	2	3	4	5	6	7	8	10	14
症例									
1		5.0	2.0	1.5		0			
2			4.5		2.0				0
3			5.0			0			
4		6.0		5.0	1.5	0	0	0	0
5		12.0		4.0					0
6			2.0		0.5		0		0
7		8.5		3.0	0	0			0
8			4.0	4.0	2.0	0.5	0.5		0.5
9				2.0	0		0	0	0
10				0	0	0	0	0	0
11		6.0	6.5	3.5	3.0	1.0	1.5		0
12			3.5	2.0	0.5		0		0
13	10.0	11.0	3.0	0.5					0
14		13.5	10.0	2.0	0.5			0.5	0
15	4.0	2.0	0.5	0		0		0	0
16			3.0	2.0	0		0	0	0
17	7.0	5.0	3.0	0		0		0	0
18			5.5	4.0	1.0		0	0	0
19	7.5	4.0	0.5		0	0		0	0
平均%	7.1	7.3	3.8	2.2	0.8	0.2	0.2	0.1	0.03
検査例	4	10	14	15	13	10	9	9	17
陽性例	4	10	14	12	8	2	2	1	1
出現率%	100	100	100	80	62	20	22	11	6

又第一病週の終り、即ち落屑初期に正常に復した者最も多く一五例(七八・九%)で、他は第二病週に亘つた。百分率平均値は Schilling の平均六七%、北島の五三・九%の成績に次いで岩波等は第三病日七四%を算し、第五病日には五三%に減少して爾後大なる動搖を示さぬ云々。

余の成績に於て平均値は第三病日八五・一%に達して最も増加を示し、以後次第に減少して第六病日には五六・九%となり、其の後は大

高橋 II 猩紅熱、アンギナ、及び溶連菌精製毒素接種例に於ける血液像の關係に就て

高橋¹¹猩紅熱、アンギナ、及び溶連菌精製毒素接種例に於ける血液像の關係に就て

三九六

なる變化を見ず(第六表第一圖)。又病日別に中性嗜好細胞の増減を見るに、第二病日より第五病日に亘り、本細胞の増加を示せる例多く、第六病日以後は正常値の範圍に止る例が多い。(第二表)

核形推移。中性嗜好細胞の核形推移に關して Katschekoff, Roth, Sahli 等の文獻に徴するに、本細胞の增多症と並行して桿狀核細胞の増加、メタミエロチーテン、ミエロチーテンの出現を見ることが多いこと云ふ。

余の成績に於ても初期桿狀核細胞増加し、同時に幼若型出現した。殊にメタミエロチーテンの出現したものと一三例に達し、之等の中第二乃至第六病日に證明したものと多く、更に二例にミエロチーテンを認めた。

第三項 デーレ氏封入小體

本小體は一九一一年 Döhle の發見に因る小體で、猩紅熱患者血液の中性嗜好細胞原形質中ギムザ液、レフレル氏メチレンブラウ或はマンソン氏ボラックス・メチレンブラウに好く染色し「コンマ」狀、桿狀、球狀、螺旋狀等を呈して一個の中性嗜好細胞原形質中に一乃至數個を見ると。發見當初は紅熱病原體と云はれたが、其の後 Kraitschmer, Schwenke, Pappenheim 其の他の學者によつて本小體は必ずしも猩紅熱特有のものでなく其の他の疾患に來る事も證明せられるに至つた。殊に岡島⁽³¹⁾は膿胸、ワイル氏病、パラチフス、アンギナ、單純性紫斑病、天疱瘡、悪性腫瘍、肺壞疽、恙蟲病、先天性微毒、發作性血色素尿、小舞踏病、慢性腎炎、特發性膀胱出血、癩癩、バンチ氏病、日本住血吸蟲症、ホドキン氏病、バルロウ氏病、滲出性素因、氣管枝炎、チフテリ後麻痺、黃疸、鼠咬症等に本小體の出現を認めた。猩紅熱に於ては佐々木、須藤、吉田、本間⁽³²⁾、岩波、Schrititz, Rolly, Friedemann 等の報告がある。それによれば本小體は猩紅熱特有のものではないが八〇%以上出現し、而も初期、發疹著明の極期に増加し、且中性嗜好細胞の増減と一定の關係がある。

余の例に於ても第二病日より第四病日迄の高熱發疹期に相當して實驗例の一〇〇%に證明し、第五病日以後次第に減少して第一病週の終りよりは極めて稀に出現する程度となる。然し第一四病日に於ても之を認めた一例がある。本小體は第二病日中性嗜好細胞の一〇%、第三病日一三・五%に達せるを見、其の平均値に於ても第二、第三病日は七・一―七・三%を示して、最も著明に出現し、第六病日以後は一%以下に減少した。(第三表)

第四項 エオジン嗜好細胞

本細胞の増減を認める疾患は甚だ多い。殊に猩紅熱の際初期エオジノフィリーを見ること及び重篤例では本細胞の缺如すること本症鑑別診斷上、又豫後判定上重要視せられて居る。従つて從來猩紅熱に關する多くの報告を見るに常に本細胞を中心として居る。本細胞は猶老幼男女重輕症の別に依つて多少の相違を見ること云ふ。

Schilling, R. Hilgermann, 及び T. Lossen³³、横森、佐藤(清)³⁴等は發病第一日より相對的にも絶對的にも本細胞の増加を見、發疹高潮時最高率に達し解熱と共に正常に復するが恢復期再び後期エオジノフィリーを來たすと。

Roth, Grawitz, Naegeli, Sahli, Praunder & Schlossmann, 吉田等是有熱期の末より恢復期の初めに亘つて、即ち疹消褪し落屑開始期に増加著し。³⁵ Ambur³⁶によれば本細胞は發病第一日軽度の減少を來し、其の後一轉してエオゾノフィリーとなり、第一病週後最高潮に達し経過と共に漸減して第八病日以後再び増加を來すも前期に比して低度であると云ふ。小宮は初期には本細胞の變化を見ぬが、或は少しく減少するも發疹の極期、遅くも第二病週の初めには二〇%以上の増加を示す者を見ると。須磨によれば發病當初多少の減少を見ることは小宮と同様であるが第一病週の終りより第二病週の初めに亘つて即ち落屑初期に最も増加し、時には落屑開始後一週乃至二週間は増加する者を認め、第三病週以後正常値に近づく。佐々木、岩波も全経過を通じてエオジノフィリーを見ると云ふ。

以上を綜合するに本細胞は、

(イ)發病初期より増加する。

(ロ)發病初期は變化せぬか或は多少減少する。

(ハ)發疹高潮時エオジノフィリー著明となり第一病週の終りに正常に復する。

(ニ)發疹消褪し、落屑初期に著明のエオジノフィリーを見る。

(ホ)發疹高潮時或は落屑初期及び恢復期にエオジノフィリーを見る。恢復期に於けるものは初期エオジノフィリーより低度である。而して余の成績に就いて見るに全例にエオジノフィリーを認める。之を経過に従ひ詳述すれば第二病日は多くは正常値にあるか、多少の減少を見、増加を見たのは一例に過ぎない。第三病日より増加を見、發疹消褪の始まる第四乃至第六病日最高率を示すもの最も多く一九例中一二例(六三%)を占め其の最高値は第四病日で一四・六%に達してゐる。其の後次第に減少して第一病週の終りより第二病週の初めに亘つて正常に復する者を多く見るが、四例は第二病週中尙エオジノフィリーを見、又二例は第二病週に入つて初めてエオジノフィリーを認めた。更に初期エオジノフィリーを證明し且第二病週以後の恢復期に於て再び本細胞の増加した者六例(三一・六%)を見た(第四表)。其の値は初期エオジノフィリーに比して低度である。

百分率平均は第三病日五・三%、第五病日六・二%を最高とし、以後次第に減少して第八病日四・八%を算し、其の後は増加を見ない(第六表、第一圖)。之は岩波等の百分率平均第三病日五・五%、第五病日八・三%、第一〇病日五・二%に比して稍々低率で正常に復するものも稍々早い。

高橋||猩紅熱、アンギナ、及び溶連菌精製毒素接種例に於ける血液像の關係に就て

第4表 猩紅熱患者19例の病日とエオジン嗜好細胞増減との關係
但し數字は例數

病日 エオジン嗜好細胞(%)	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	14	21	31
0—2	2	1	3		2			1	1		2	3	1
2—4	1	3	1	2	2	3	3	2	1	1	8	2	1
4—6		2	4	7	2	2	4	1	4	2	5	4	3
6—8	1	1	3	3	5	4	1	2	2	2	1	4	
8—10		1	3		1		1		1		1	2	
10—12		2		1	1	1		1					
12—14				1									
14—16				1									
16—18													
18—20													

第5表 猩紅熱患者19例の病日と淋巴球増減との關係
但し數字は例數

病日 淋巴球(%)	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	14	21	31
0—10	1	1	2	1									
10—20	3	5	3	6									
20—30		3	4	5	7	2	1	2	4	1	4	2	
30—40			4	2	2	4	5	4	1	2	3	4	
40—50		1	1	1	3	2	1		4	1	8	3	2
50—60					1	1	1				2	5	2
60—70												1	1
70—80													

高橋、三好、華岡、小島、佐々木、須磨、吉田、岩波、木村等の報告は等しく初期に減少し、解熱と共に増加して傳染病後期増加に移行すると云ふ。殊に華岡は極期に三・三%迄、佐々木は極めて重篤な場合一・〇%以下に減少するを見、且二・〇%乃至四・〇%以下の場合には常に死の轉歸をとると云ふ。又須磨は本病發病後二四乃至四八時間に於て小淋巴球の減少を認め、吉田は高熱發疹期に相對的にも絶對的にも著明の減少を見、最も著明

第六項 淋巴球

第五項 鹽基性嗜好細胞

三九八

猩紅熱經過中の本細胞の消長に關しては Amberson, 三好、華岡、小島、佐々木、吉田、岩波等の報告によれば、高熱發疹期に著明に減少又は消失し、第三乃至第四病週に至つて出現乃至増加すると。須磨は第三病週の終りより増加し、第五病週乃至第六病週に亘つて漸次減少し、又早い場合は第二病週の終りより第三病週に及んで増加し第四病週より減少を始むるものを見たと云ふ。

余の成績に於ても、諸家の成績と等しく發病第二乃至第六病日減少、又は消失する者多く、其の値も〇%—〇・六%となり、第二病週以後次第に恢復する。

百分率平均は第二乃至第四病日〇・一%、第五病日〇・二%、第七病日〇・五%、第二四病日〇・六%を示し(第六表、第一圖)岩波の成績と略々一致す。

な一例は第五病日二・〇％に減少し、一〇・〇％以下の者が全例の四〇％に達したが第七、第八病日即ち落屑初期より急に増加したと報告して居る。

余の實驗に於ては本細胞は第二乃至第五病日即ち初期高熱發疹極期に最も著明に減少する者多く(第五表)、其の細別を見るに第二病日四例中の三例(七五％)、第三病日六例中の四例(六六・七％)は何れも第二病日及び第三病日に最低値を示し、一〇％或は夫れ以下に減少せるもの六例(三一・六％)を數へ殊に一例は第三病日及び第四病日三・四％に減少した。本細胞は第一病週の終り即ち發疹消褪し落屑開始期には増加して正常に復し、更に第二病週以後の恢復期に増加せるもの一五例(七九％)を見る。

百分率平均は第二病日最も低く一一・六％に減少し、第三病日より次第に恢復して、第二病週以後は恢復期増加を認む(第六表、第一圖)。岩波等の成績に於ても第三病日一八％を示し相對的に減少し、第五病日には三六・三％、第一七病日三三・五％、第二四病日三五・五％に達し、長期に亘つて傳染病後期増加状態を續けて居る。而して本細胞の絶対値は百分率と共に初期減少を見るが、其の減少の程度は百分率の動搖に比して軽度にして、此の期に見る白血球總數の増加は淋巴球の影響を受ける事比較的少く、中性嗜好細胞の増減によつて支配せられるものと思惟す。

第七項 大單核細胞及び移行型

猩紅熱の全經過を通じて相對的にも絕對的にも本細胞の増加を記載する者に小宮、横森、須藤の諸氏がある。佐藤、Naegen Rolly 等は中性嗜好細胞の増減に比例すると云ひ、吉田は高熱發疹の極期には減少する者多く、この期に於て正常及び正常以下の値を示すものは全例の九九・七％を算すと。岩波は病日後期に稍く高率を示すが本細胞の消長と病日との間には一定の關係を認めぬ。Roh も本細胞の増加はないと云ふて居る。

余の實驗によれば本細胞は初期稍く減少を認めるものがあるが九四・七％は正常値の範圍内で動搖し、正常値を越える者極めて少く、初期一例、恢復期一例に過ぎず。

第八項 プラスマ細胞及びチュルク氏刺戟型

猩紅熱に於ては本細胞が比較的多く出現すると云ふ報告が多い。須藤は本症の發疹高潮期より落屑期に出現を認め、第一病週、第二病週に亘つて最大出現率を示すも爾後漸次減少して約六週後正常範圍に復歸すると云ひ、吉田は第七病日に平均四％を算し、一二三回の検査中一〇九回之を認めた。岩波等も本症初期に比較的高率を示すと云ふが、佐々木は本症と本細胞との間に特別の關係を認めぬと云ふ。

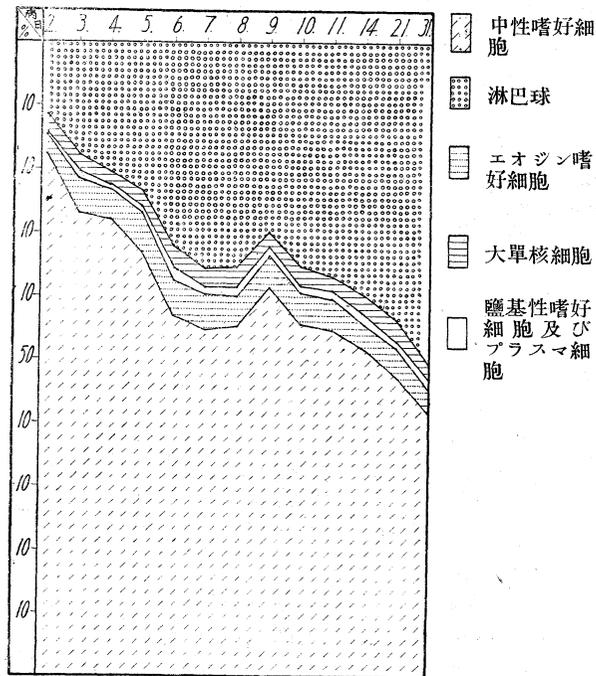
余の成績に就て見るに、本細胞は第二病日既に軽度に出現し、最高〇・六％、百分率平均〇・三％に過ぎぬが、第三病日より第六病日の發疹高潮期乃至落屑初期に亘つて最も著明に出現し、最高二・四乃至四・四％を示す者あり、百分率平均一・〇―一・五％を示す。殊に第

第6表 猩紅熱19例白血球百分率平均表

病日	最高體溫	白血球數	百分率					
			B	E	N	L	M	P
2	38.7	14,500	0.1	3.0	82.5	11.6	2.6	0.3
3	38.3	16,400	0.1	5.3	73.1	17.9	2.4	1.2
4	38.3	14,600	0.1	5.8	71.1	20.6	1.7	0.7
5	38.0	11,800	0.2	6.2	66.9	23.5	2.2	1.0
6	37.7	10,200	0.4	5.7	56.9	32.1	3.4	1.5
7	37.5	10,200	0.5	5.5	54.7	35.7	2.8	0.8
8	37.4	10,100	0.6	4.8	55.2	35.1	3.3	1.0
9	37.5	10,100	0.9	5.1	61.3	29.8	2.3	0.6
10	37.1	9,200	0.8	4.9	55.5	35.3	3.1	0.4
11	36.6	10,540	0.8	5.0	54.6	36.9	2.2	0.5
14	36.7	9,400	0.8	3.8	51.7	39.4	3.4	0.9
21	36.5	10,100	0.6	4.8	47.1	43.8	3.2	0.5
31	36.3	9,940	0.7	3.7	41.9	50.6	2.3	0.8

高橋、猩紅熱、アンギナ、及び溶連菌精製毒素接種例に於ける血液像の關係に就て

第一圖 白血球百分率帯(19例平均)



六病日に最も著明に出現する。第七病日以後は次第に減少して一%を越える者は一例も見ぬが、第三一病日に於て尙第二病日より高率に本細胞の出現を認めたものがある。

第九項 赤血球及び血色素

Schiffes は猩紅熱の病初既に血色素著しく減少し、赤血球は多く正常値を示すが急性期の終りに至れば減少を認む。

Naegeli, Tilston 及び Locke (37) は往々にして中等度の貧血を見らるゝ。吉田によれば赤血球は初期より解熱期に亘り軽度の減少を來たすと云ふ。

血色素量に就いては鶴見、杉田(38)によれば中等症及び重症者に於ては常に減少すと。三上は第四乃至第五病日大多數に減少を認め、吉田は赤血球數に

準すと云ふ。

の實驗に於ては初期赤血球數の輕度の減少を來たす者を見るが大部分は變化を認めぬ。而して血色素量は赤血球數に準じ、血色素係數は 〇・六 である。

第四章 總括

白血球數は第二病日より増加し、高熱發疹期に當る第三乃至第五病日最も著明に増加して第一病週の終りには正常數に復するものが多い。一部は第二病週の初期正常に復する。最も著明な例は二、三、六〇〇に達したが大多數は二〇、〇〇〇乃至一〇、〇〇〇の間に止る。中性嗜好細胞も白血球の消長と同様高熱發疹の極期に著明に増加し、大多數は第一病週の終りに正常に復し、恢復するに従つて次第に比較的淋巴球增多症に移る。初期本細胞の高度の増加に際しては輕度の幼若型の出現を見る。デーレン氏封入小體は初期より出現し、殊に第三乃至第四病日には中性嗜好細胞の増加に比例して最も著明に出現するが第一病週の終りには頓に減少する。比較的重症例では第二病週以後の恢復期にも之を認める。

「エオジン」嗜好細胞は發病直後正常或は輕度の減少を示し、大多數は第三病日乃至第六病日の發疹極期より消褪期に亘つて著明の増加を見、落屑初期正常に復するが恢復期に再び本細胞の増加を來たす者がある。又、一部は第二病週の終りより第二病週以後の恢復期に持續的にエオジノフィリーを來たす者がある。

鹽基性嗜好細胞は第二病日既に著明に減少を見、第一病週は減少又は消失する者多く、其の値も〇%—〇・六%を示し、第二病週以後次第に増加するが一・四%以上の増加を來たす者を見ず。

淋巴球は第二病日より既に減少を見、多くは第二乃至第五病日の發疹極期に減少する。第一病週の終りには正常に復し、爾後次第に増加して恢復期比較的淋巴球過多症を認める。

大單核細胞は初期稍々減少を認める者もあるが大多數は正常の範圍内に止る。

プラズマ細胞は初期より出現し、第三乃至第六病日に亘つて稍々著明に出現し、第二病週以後は次第に減少して一%以下に止る。赤血球數は初期輕度の減少を來たす者を見るが大部分は變化を見ない。血色素量は赤血球數に準じ、血色素係數は殆ど不變である。

第五章 結論

高橋Ⅱ猩紅熱、アンギナ、及び溶連菌精製毒素接種例に於ける血液像の關係に就て

高橋II猩紅熱、アングナ、及び溶連菌精製毒素接種例に於ける血液像の關係に就て

四〇二

(一)白血球數、中性嗜好細胞は發病直後より増加して發熱發疹の極期其の増加最も著明となり、第一病週の終りには正常に復す。
 (二)デーレ氏封入小體は發熱發疹の極期、中性嗜好細胞の増加と共に著明に出現し、第一病週の終りには頓に減少する。重症例に於ては本小體の出現著明、且長期に亘る。

(三)エオジン嗜好細胞は發病直後輕度の減少を示し、發疹消褪期著明の増加を見る。更に本症恢復期二次的増加を見るも、第一次増加に比較して輕度である。

(四)鹽基性嗜好細胞は發病直後より第一病週の間、減少又は消失し、第二病週正常に復す。

(五)淋巴球は第二及び第三病日最も著明に減少し、以後次第に恢復して第二病週より恢復期増加を示す。

(六)大單核細胞及び移行型は一般に正常の範圍に止る。

(七)プラスマ細胞及びチュルク氏刺戟型は初期より僅に出現し、殊に第三病日より第六病日に亘り稍々著明に出現す。

(八)赤血球數及び血色素量は初期僅に減少する場合あるも、一般には増減を見ず。

以上を要するに余の實驗した定型的猩紅熱血液像に諸家報告の成績は其の變化の程度に多少差異を認むるも、其の變化様式は全く一致する。就中デーレ氏封入小體は本症に特有のものに非ざるも、其の著明な出現は診斷上の一助となるのみならず、又エオジン嗜好細胞の著明な増加及び其の變化は本症に特有のものとして他疾患との鑑別診斷上意義あるものと思考す。(第一編終り)

第7表 猩紅熱19例血液像の經過的變化

症例	姓 名	性 別	年 齡	病 日	最高體溫	赤血球數	血色素量 (%)	血色素係數	白血球數	百分率							絕對值			備 考							
										N		E		B		L		M			P		D		N	E	L
										J	Stab	Seg															
1	↑	3. j	3	37.3	4550000	65	0.719	150	0	19.042	0.114	0	22.6	3.4	1.6	5.0	11.681	2.183	4.328	第3日覆盆子							
			4	37.2	4560000	62	0.721	150	0	22.046	2.80	0.220	0	2.2	1.4	2.0	14.424	1.692	4.230	第4日發疹消							
			5	37.3	4460000	64	0.717	100	0	15.822	6.122	0.245	8	2.4	1.0	1.5	6.566	2.086	7.831	第4日發疹消							
			7	36.3	4500000	70	0.712	000	0	9.229	4	5.2	0.454	8	1.0	0	0	4.632	624	6.576	第4日發疹消						
			11	36.4	4240000	61	0.711	650	0	12.438	4	4.6	0.841	0	2.6	0.2	0	5.918	535	4.776	後						
			21	37.1	4440000	66	0.710	300	0	10.617	8	9.4	0.459	0	2.4	0.4	0	2.925	968	6.078							

2	♀	6.j	4	39.7	4740000	70	0.723,600	0	39.8	50.2	1.2	0	6.8	1.0	1.0	4.5	21.240	283	1.604	第4日覆盆子舌 第6日發疹消褪 開始 第9日落屑
			6	37.0	4790000	72	0.814,450	0	22.4	36.2	1.6	0	36.0	1.6	1.2	2.0	8.467	231	5.202	
			9	36.8	4120000	67	0.811,400	0	20.4	34.8	6.4	0.4	34.6	2.0	1.4	0	5.992	729	3.944	
			11	36.6	3990000	65	0.814,450	0	12.6	34.4	4.2	0.6	45.2	2.4	0.6	0	6.791	607	6.531	
			14	36.1	4300000	68	0.813,750	0	14.0	38.2	2.0	0.2	42.6	2.6	0.4	0	7.177	275	5.857	
			21	36.4	4530000	72	0.813,000	0	12.0	27.6	5.2	0.2	51.6	2.6	0.6	0	5.174	676	6.708	
			4	38.2	4580000	76	0.822,100	0	26.4	42.0	6.4	0	22.0	3.0	0.2	5.0	15.116	1,414	4.862	
			7	38.0	4680000	78	0.815,000	0	18.4	34.6	3.0	0.2	38.4	4.4	1.0	0	7.950	450	5.760	
			9	36.8	4700000	78	0.819,000	0	15.4	36.8	11.2	0.4	34.8	1.0	0.4	0	4.698	1,008	3.132	
			11	36.5	4690000	75	0.811,350	0	10.6	45.2	7.0	0.4	34.6	1.8	0.4	0	6.333	794	3.927	
			21	36.2	4610000	76	0.815,000	0	9.8	46.8	6.6	0.2	32.0	4.2	0.4	0	8.490	990	4.860	
			3	38.7	4560000	70	0.813,700	0	28.6	44.6	5.0	0.2	15.4	5.2	1.0	6.0	10.028	685	2.010	
			5	37.4	4600000	72	0.814,400	0	30.6	28.0	6.0	0.2	29.0	4.2	2.0	5.0	8.482	864	4.176	
			6	37.0	4670000	76	0.810,250	0	25.8	29.8	7.6	0.4	30.8	4.0	1.6	1.5	5.699	779	3.157	
4	♀	8.j	7	36.9	4800000	77	0.810,200	0	25.6	30.6	7.4	0.6	29.0	3.0	3.8	0	5.732	755	2.958	第5日覆盆子舌 第7日發疹消褪 開始 第8日落屑
			8	37.2	4920000	79	0.810,700	0	15.0	38.6	8.0	0.6	34.6	2.6	0.6	0	5.735	856	3.702	
			10	36.5	4750000	77	0.819,900	0	15.0	35.0	4.6	0.8	41.8	2.4	0.4	0	4.950	455	4.138	
			14	36.3	4960000	81	0.819,700	0	13.8	34.6	7.4	0.6	40.4	2.0	1.2	0	4.675	448	3.919	
			21	36.2	4980000	80	0.819,950	0	10.4	38.0	6.6	1.0	41.6	2.4	0	0	4.816	657	4.139	
			31	36.5	4990000	80	0.812,000	0	6.0	42.0	5.4	1.2	41.4	3.0	0	0	5.760	648	4.968	
			3	38.7	3500000	60	0.921,650	0	40.4	45.2	2.6	0.2	10.0	1.4	0.2	5.0	18.532	562	2.165	
			5	38.8	4120000	67	0.814,000	0	46.0	21.6	10.4	0.2	17.4	2.0	2.4	0	9.464	1,456	2.436	
			9	39.0	4500000	70	0.812,700	2.0	54.4	13.6	4.6	1.0	18.6	4.4	1.4	0	8.636	584	2.362	
			14	37.1	4620000	73	0.819,700	0	23.4	19.2	5.0	0.8	49.0	2.0	0.6	0	4.132	485	4.753	
			21	36.7	4400000	68	0.819,850	0	17.2	31.0	4.6	1.0	40.4	4.8	1.0	0	4.757	453	3.949	
			4	37.7	3940000	65	0.819,500	0	21.4	47.2	5.2	0.4	24.8	1.0	0	2.0	6.517	494	2.356	
			6	38.1	3580000	59	0.810,000	0	23.0	25.4	2.6	0.2	48.2	0.6	0	0.5	4.840	260	4.820	
			8	38.8	4350000	65	0.814,300	0	26.4	35.6	2.4	0	32.6	2.6	0.4	0	8.866	629	5.662	
14	36.7	3910000	64	0.810,400	0	22.6	44.4	2.0	0.4	29.2	3.0	1.0	0	6.656	208	3.037				

高橋ニ猩紅熱、アンギナ、及び溶連菌精製毒素接種例に於ける血液像の關係ニ就ク

高橋II猩紅熱、アンギナ、及び溶連菌精製毒素接種例に於ける血液像の關係に就て

四〇四

7	↖	9, j	21	36.7	3990000	65	0.8	8,500	0	19.4	42.2	1.0	0.2	32.8	4.4	0	0	5.236	85	2.788	第3日覆盆子舌 第6日發疹消褪 第7日落屑開始	
			31	36.3	4220000	70	0.8	9,900	0	14.2	40.8	1.2	0.8	40.0	2.0	1.0	0	0	5.445	119		3.960
			3	39.5	3650000	62	0.9	11,900	1.0	35.6	40.8	4.0	0.2	14.0	2.4	2.0	8.5	9.211	476	1.666		
			5	37.8	3590000	61	0.9	12,000	0	32.6	33.0	5.2	0	25.4	3.0	0.8	3.0	7.872	624	3.048		
			6	37.6	3900000	65	0.8	11,000	0	30.2	29.6	4.2	0.6	29.6	3.6	2.2	0	6.578	462	3.256		
			7	37.5	3810000	64	0.8	10,650	0	25.0	31.8	3.8	0.6	36.4	2.4	0	0	6.049	405	3.876		
			9	37.2	4520000	77	0.8	9,200	0	22.0	43.2	3.4	1.2	28.0	1.6	0.6	0	5.998	313	2.576		
			14	37.0	4300000	70	0.8	7,100	0	21.8	29.2	1.6	1.0	42.0	4.0	0.4	0	4.260	114	2.982		
			21	37.0	4530000	76	0.8	12,500	0	21.4	36.0	3.0	0.6	35.4	3.0	0.6	0	7.175	375	4.425		
			4	37.7	5520000	89	0.8	20,000	1.8	30.6	30.6	1.6	0.2	32.0	1.8	1.4	4.0	14.320	320	6.400		
8	↗	3, j	5	37.1	5480000	88	0.8	14,856	1.8	17.2	33.0	7.0	0.2	38.2	2.0	0.6	4.0	7.663	1.040	5.653	第4日覆盆子舌 第7日發疹消褪 第11日落屑開始	
			6	36.7	4800000	76	0.8	12,000	1.0	16.0	24.2	7.4	0.6	46.8	3.0	1.0	2.0	4.944	888	5.616		
			7	36.8	5120000	78	0.8	12,100	0	19.2	32.2	6.0	0.6	38.4	3.6	0	0.5	6.219	726	4.646		
			8	37.2	4870000	78	0.8	14,456	0	14.2	32.8	5.6	1.0	41.6	3.6	1.2	0.5	6.792	810	6.011		
			14	36.3	5120000	79	0.8	13,400	0	12.4	32.0	2.4	1.2	47.2	4.0	0.8	0.5	5.950	322	6.325		
			21	36.0	4620000	74	0.8	9,200	0	5.4	22.4	1.0	0.8	67.4	2.6	0.4	0	2.558	92	6.201		
			31	36.0	4430000	70	0.8	10,900	0	4.8	29.4	3.6	0.4	58.2	3.0	0.6	0	3.728	392	6.343		
			5	38.5	5440000	96	0.9	8,600	0.2	32.6	38.2	5.4	0.4	19.0	3.2	1.0	2.0	6.106	464	1.634		
			6	37.7	5100000	92	0.9	5,650	0.8	24.2	40.6	9.2	0.4	21.4	3.4	0	0	3.616	520	1.209		
			8	37.3	4980000	90	0.9	10,550	0	16.6	47.2	4.0	1.0	26.6	3.0	1.6	0	6.731	422	2.806		
9	↘	13, j	9	37.3	4890000	90	0.9	12,700	0	14.2	54.6	2.2	1.0	25.0	3.0	0	0	8.738	279	3.175	第5日覆盆子舌 第7日發疹消褪 第8日落屑開始	
			10	37.4	4550000	80	0.9	9,900	0	17.6	53.4	4.6	0.8	20.0	3.6	0	0	7.029	455	1.980		
			11	37.5	4920000	87	0.9	7,250	0	15.2	49.4	2.4	0.8	27.8	3.0	1.4	0	4.684	174	2.016		
			14	37.2	5060000	90	0.9	7,600	0	15.4	48.6	2.4	0.6	26.2	5.0	1.4	0	4.864	182	1.991		
			5	37.2	4550000	80	0.9	10,750	0.8	42.2	31.2	6.0	0.4	16.4	3.0	0	0	7.977	646	1.763		
			6	36.6	4580000	80	0.9	8,000	0	31.4	36.8	5.6	0.2	22.0	2.8	1.2	0	5.456	448	1.760		
			7	36.7	4420000	78	0.9	6,700	0	15.4	47.6	11.0	0.8	22.4	1.2	1.6	0	4.160	737	1.501		
			8	36.4	4500000	79	0.9	7,450	0	15.6	43.2	7.2	0.8	32.4	0.8	0	0	4.381	536	2.414		
			9	36.8	4490000	78	0.9	8,400	0	12.4	45.2	7.4	0.6	33.6	0.8	0	0	4.838	522	2.822		
			10																			

11	5. j	10	37.0	3900000	70	0.9	8,400	0	4.8	33.8	8.2	1.4	49.6	2.2	0	0	3.2	42	689	4,166	第3日癩盆子舌 第8日癩疹消褪 第8日癩屑開始	
		11	36.2	4200000	76	0.9	8,000	0	7.8	46.6	7.0	1.2	35.0	1.4	0	0	4.3	54	560	2,880		
		14	36.0	4300000	76	0.9	7,650	0	9.4	35.0	9.2	0.6	42.2	3.6	0	0	3.3	37	704	3,228		
		21	36.3	4230000	75	0.9	6,850	0	5.4	41.8	9.8	0.8	41.0	0.6	0.6	0	3.2	33	671	2,808		
		3	37.9	4810000	78	0.8	10,500	0.2	15.2	44.6	10.0	0	25.4	3.6	1.0	6.0	6.3	0	1.0	50		2,627
		4	38.0	4790000	78	0.8	6,250	0	20.4	26.8	14.6	0.2	33.4	4.0	0.6	6.5	2.9	50	913	2,088		
		5	38.2	4500000	75	0.8	6,800	0	28.4	37.6	4.2	0.2	27.0	1.4	1.2	3.5	4.4	88	286	1,836		
		6	38.8	3770000	64	0.9	11,850	0	31.2	42.4	0.6	0.6	22.4	1.6	1.2	3.0	8.7	72	71	2,654		
		7	38.8	3990000	70	0.9	8,700	0	21.0	25.4	2.0	0.4	45.0	4.8	1.4	1.0	3.1	67	174	3,913		
		8	38.2	4320000	74	0.9	6,200	0	22.8	36.8	2.2	1.0	30.8	4.4	2.2	1.5	3.6	48	136	1,909		
12	6. j	14	36.4	4270000	72	0.9	7,000	0	21.6	22.2	1.8	1.4	46.4	4.8	1.8	0	3.0	66	126	3,248	第4日癩盆子舌 第6日癩疹消褪 第8日癩屑開始	
		21	36.2	4200000	72	0.9	7,500	0	12.4	26.2	2.4	0.8	55.2	2.6	0.4	0	2.8	95	180	4,140		
		4	39.2	4300000	64	0.8	11,650	0.4	30.4	53.2	4.8	0	10.0	1.2	0	3.5	9.8	59	1,165			
		5	37.9	4220000	64	0.8	10,150	0	25.6	42.6	4.8	0	25.0	1.4	0.6	2.0	7.1	105	487	2,537		
		6	37.3	4350000	65	0.8	5,200	0	15.8	23.2	7.6	0.2	50.4	1.2	1.6	0.5	2.0	28	395	2,620		
		8	36.7	4440000	65	0.7	7,700	0	9.4	21.8	5.0	0.6	59.2	4.0	0	0	2.4	02	385	4,558		
		14	37.2	4500000	67	0.7	7,900	0	14.8	43.6	2.6	0.8	34.6	3.0	0.6	0	4.0	03	205	2,733		
		21	36.2	4100000	59	0.7	9,900	0	13.0	20.8	4.0	0.2	56.8	4.2	1.0	0	3.3	46	396	5,623		
		31	36.5	4710000	68	0.7	11,000	0	8.4	34.6	4.2	0	50.8	1.6	0.4	0	4.7	30	462	5,588		
		2	37.8	4610000	68	0.7	14,000	0	8.2	67.2	7.2	0	15.4	2.0	0	10.0	10.5	68	1,008	2,156		
13	6. j	3	37.3	3980000	59	0.7	10,500	0	10.0	52.2	6.4	0.2	29.0	2.2	0	11.0	6.5	31	672	3,125	第3日癩盆子舌 第5日癩疹消褪 第14日癩屑開始	
		4	37.0	3860000	59	0.7	11,500	0	6.6	53.4	5.0	0	34.4	0.6	0	3.0	6.7	85	575	3,956		
		5	37.0	4030000	60	0.7	10,500	0	3.6	41.6	14.2	0.4	37.2	2.6	0.4	0.5	4.7	46	1,491	3,966		
		14	36.7	4370000	62	0.7	13,000	0	4.0	35.6	5.6	1.0	50.0	3.8	0	0	5.1	48	728	6,500		
		3	40.0	4000000	65	0.8	21,450	0.6	22.0	61.2	2.2	0	13.4	0.4	0.2	13.5	17.9	96	471	2,874		
		4	39.4	3780000	60	0.8	17,500	0.8	44.4	40.4	1.6	0	12.4	0.4	0	10.0	14.9	80	280	2,170		
		5	38.9	3890000	62	0.8	15,250	1.4	27.2	54.8	5.0	0.2	10.0	1.2	0.2	2.0	12.7	78	762	1,525		
		6	37.8	4300000	70	0.8	13,500	0	16.0	55.4	6.4	0.6	20.2	1.0	0.4	0.5	9.6	39	864	2,727		
		10	37.2	3920000	63	0.8	11,000	0	11.6	35.2	7.2	0.4	39.6	5.4	0.6	0.5	5.1	88	792	4,356		
		14	10. j	10	37.2	3920000	63	0.8	11,000	0	11.6	35.2	7.2	0.4	39.6	5.4	0.6	0.5	5.1	88		792

高橋ニ猩紅熱、アンギナ、及び溶連菌精製毒素接種例に於ける血液像の關係に就て

高橋ニ猩紅熱、アンギナ、及び溶連菌精製毒素接種例に於ける血液像の關係に就て

四〇六

15	♂	7. j	14	36.6	4320000	68	0.8	9, 450	0	6.6	41.2	4.0	1.4	41.8	4.2	0.8	0	4.5	17	378	3, 950	第2日覆盆子舌 第6日發疹消褪 第7日落屑開始					
			21	36.6	4120000	64	0.8	8, 500	0	13.2	36.8	6.2	1.0	39.6	3.2	0	0	4.2	50	527	3, 366						
			2	38.8	4430000	70	0.8	20, 250	0	4.7	0.53	6	0.6	0	6.0	2.0	0.4	4.0	18.3	87	1, 215						
			3	38.6	4020000	65	0.8	15, 400	0	0.8	38.2	55.8	0.2	0.2	3.4	1.2	0.2	2.0	14.5	99	31		524				
			4	39.0	4300000	70	0.8	21, 900	0	1.2	37.4	55.2	2.0	0	3.4	0.6	0.2	0.5	20.5	42	438		745				
			5	38.5	3970000	64	0.8	18, 000	0	35.6	48.4	4.0	0	8.0	3.4	0.6	0	15.1	120	720	1, 440						
			7	38.0	4540000	71	0.8	8, 200	0	28.0	49.6	4.6	0.4	13.0	4.0	0.4	0	6.3	63	377	1, 066						
			10	36.9	4600000	70	0.8	9, 000	0	17.2	49.8	5.8	0	23.4	3.8	0	0	6.0	30	522	2, 106						
			14	36.5	4410000	69	0.8	7, 900	0	20.4	32.0	3.4	0.2	38.6	3.8	1.6	0	4.1	140	269	3, 049						
			21	36.2	4700000	73	0.8	10, 300	0	13.8	51.2	5.0	0.6	24.6	3.6	1.2	0	6.6	95	515	2, 534						
			4	39.8	4550000	78	0.9	11, 300	0	8.3	52.3	6	8.2	0	22.0	2.2	1.0	3.0	7.5	26	926		2, 426				
			5	38.8	4500000	77	0.9	8, 200	0	1.2	27.0	47.2	2.2	0.2	18.6	2.4	1.2	2.0	6.1	83	180		1, 525				
			6	38.9	3990000	72	0.9	7, 000	0	30.4	37.2	3.4	0.2	22.4	4.0	2.4	0	4.7	32	238	1, 578						
			16	♀	11. j	8	37.8	4100000	72	0.9	9, 650	0	28.2	43.2	3.6	0	19.2	5.2	0.6	0	6.8		90	347	1, 853	第4日覆盆子舌 第8日發疹消褪 第8日落屑開始	
10	36.8	4490000				78	0.9	9, 400	0	12.6	58.2	2.6	1.2	22.4	3.0	0	0	6.6	55	244	2, 106						
14	36.8	4380000				76	0.9	6, 500	0	14.2	39.8	4.2	0.8	37.0	3.6	0.4	0	3.5	10	351	2, 405						
2	38.6	4140000				64	0.8	14, 500	0	19.6	63.8	0.6	0	12.4	2.4	0.6	7.0	12.1	80	87	1, 798						
3	37.2	4100000				64	0.8	19, 000	0	15.4	42.6	9.6	0	27.4	2.6	2.4	5.0	11.0	11	1, 824	5, 206						
4	37.4	3880000				61	0.8	7, 050	0	17.2	47.4	7.0	0.2	25.0	2.2	1.0	3.0	4.5	49	494	1, 762						
5	37.5	4010000				61	0.8	6, 550	0	20.0	52.2	2.0	0.4	24.6	0.8	0	0	4.7	29	131	1, 611						
7	37.4	4350000				68	0.8	8, 500	0	18.4	39.4	4.4	0.8	36.2	0.8	0	0	4.9	13	418	3, 077						
10	36.6	4530000				71	0.8	8, 600	0	22.6	45.0	0.6	0.8	28.4	1.4	1.2	0	5.8	14	52	2, 062						
14	36.2	4450000				70	0.8	11, 700	0	17.6	49.4	3.4	0.4	25.6	1.6	2.0	0	7.8	39	398	7, 839						
17	♀	6. j				4	38.3	4110000	66	0.8	12, 450	0	8.8	38.6	3.8	8	9.4	0	10.0	2.4	0	5.5	9	636	1, 170		第3日覆盆子舌 第5日發疹消褪 第10日落屑開始
						5	38.5	4060000	64	0.8	14, 850	0	1.0	25.6	56.4	4.4	0.4	11.2	1.0	0	4.0	12.3	25	653	1, 663		
						6	38.5	4240000	68	0.8	11, 250	0	25.2	35.2	11.6	0.6	22.4	4.4	0.6	1.0	6.7	95	1, 305	2, 520			
						8	37.4	4000000	64	0.8	10, 300	0	10.4	40.8	4.6	0	33.6	3.6	2.0	0	5.2	74	474	1, 276			
			10	37.1	3980000	63	0.8	8, 800	0	9.0	30.4	6.4	1.0	19.4	3.6	0.2	0	3.4	67	503	4, 347						
			14	36.9	4120000	64	0.8	10, 650	0	4.6	36.2	3.0	0.8	52.4	2.4	0.6	0	4.3	45	320	5, 681						
			18	♀	8. j	14	36.9	4120000	64	0.8	10, 650	0	4.6	36.2	3.0	0.8	52.4	2.4	0.6	0	4.3	45	320	5, 681	第4日覆盆子舌 第9日發疹消褪 第10日落屑開始		

